亀岡市指定文化財指定候補―亀山城惣構跡（秋葉神社、円通寺境内地）概要

〔文化財名称〕丹波亀山城惣構跡（秋葉神社、円通寺境内地）　２件
〔文化財種別〕史跡
〔指 定 基 準〕いずれも
　　亀岡市指定文化財指定（選定）の基準「亀岡市指定史跡」イに基づく
〔年　　代〕戦国時代～江戸時代
〔法　　量〕総延長　　ｍ
　　幅　南側　　ｍ　西側　　ｍ
　　高さ　南側　　ｍ　西側　　ｍ
〔員　　数〕２件
〔所　有　者〕旧亀岡町・宗教法人円通寺
〔所　在　地〕亀岡市紺屋町５５－２、６５

〔概　　要〕
○文献史料における惣構
　文献史料では、別紙の表の通り、天正５年（１５７７）とされる明智光秀書状において「亀山惣堀普請申付候」と出てくるのが、惣構にかかわる初見である。これは「亀山」の初見史料でもある。同じ史料中には「各被得其意、鋤・鍬・もつこ以下、有御用意、至亀山御越尤候」とあり、このとき鋤や鍬・もっこを用いた土木工事が行われたことがわかる。
　明智光秀が没落した後は、羽柴秀吉が亀山城を接収して於次丸秀勝を入れ、次いで羽柴秀俊（小早川秀秋）、前田玄以が丹波国を治める。関が原以後は、北条氏勝・繁広、権田小三郎が代官として亀山城に在番し、慶長１４年（１６０９）に至り初代亀山藩主岡部長盛が入城する（『寛政重修諸家譜』）。
　亀山城の縄張りは、岡部長盛の時期にはほとんど完成していたとみられるが、戦国時代から江戸時代初期にかけて、亀山城の変遷を示す確実な史料は、慶長１５年（１６１０）藤堂高虎が亀山城天守閣を修繕したこと等を示す『宗国史』を除けばほとんど存在せず、城や城下町の変遷過程を明らかにすることは難しい。

○絵図における惣構
　いっぽう、江戸時代になると、藩主交替等の際に亀山城の構造や城下町を表すいわゆる城下町絵図が作成されたため、これら資料により、亀山城の惣構や城下町の変遷をある程度裏付けることが可能である。
　正保元年（１６４４）に作成が命じられた『正保城絵図』によると、丹波亀山城惣構土塁の横幅が６～８間、高さが２間、惣堀の横幅が３～５間で深さが２尺～１間半となっている。ただ、寛永２０年（１６４３）に亀山藩主菅沼定芳が亡くなった際には、宗堅寺境

内にある土塁が削平されて墓石が建立されており、このときまでに、惣構の本来的な防御機能は失われていたと推測される。また藤井松平氏の時代明暦元年（１６５５）年「堀さらへ」に伴って作成された城絵図には、「此方土手高サ壱間半から弐間迄」「土手壱間」、「竹藪有り」などとあり、正保年間に比べて土塁が崩れて竹藪が叢生するなど、荒廃しているようすがうかがえる。

〇発掘調査における惣構跡

亀山城跡において、平成２８年度までに計７回の発掘調査が実施されている。

第１次調査では、亀岡高校敷地内西南隅で調査を実施し、東西にのびる溝跡１条が検出され、溝内から青磁片や灰釉皿片、軒丸瓦などが出土した。報告者は外堀の可能性を指摘している。

第２次調査では、古墳時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、土坑、溝跡、奈良時代の掘立柱建物跡と柵列、江戸時代の溝跡と土坑跡を検出した。

第４次調査では、溝跡や土坑、柵列などが検出されたが、報告者は寛政５年（1493）の「山陰丹府桑田亀山図」を参照し溝跡や柵列が武家屋敷地跡に関わるものであること、また武家屋敷の外堀側には塀・犬走り・水路・道路が存在し、土塁・外堀と続くことを指摘している。

第５次調査では、溝跡や土坑が検出された。

第６次調査は、外堀直上に当たる部分でのグリッド調査であったが、遺物や遺構は特に検出されなかった。

第７次調査は、京町天満宮境内地における京町自治会会議所建設に伴う範囲確認調査である。調査地の土層断面から、惣構内側に、外堀内側と同様水路と道路が敷設されていた可能性が想定された。

年度	次数	調査機関	原因	検出遺構	文献
昭 58	1	府埋セ	学校建築	溝跡	府遺概第 7 冊
昭 63	2	府埋セ	学校建築	竪穴住居跡、掘立柱建物	府遺概第 27 冊
平 5	3	市教委	−	−	なし
平 6	4	府埋セ	学校建築	溝跡、土坑、柵列	府埋概第 66 冊
平 13	5	市教委	ケアハウス建設	溝跡、土坑、柱穴	亀市報第 61 集
平 28	6	市教委	集合住宅建設	グリッド調査	なし
平 28	7	市教委	範囲確認調査	グリッド調査	亀市報第 95 集

〇亀山城惣構跡（秋葉神社・円通寺境内地）の歴史的価値

亀山城惣構跡（秋葉神社）は、亀岡市指定文化財である他の惣構跡に比べても残存状況が比較的良好で、江戸時代以来の様子をよくとどめている。

亀山城惣構跡（円通寺境内地）は、境内地内で倉庫を建てる際に上部が削平されてしまっているが、江戸時代以来のＬ字に屈曲する様子をとどめており、貴重である。

また、両惣構跡は『正保城絵図』をはじめ現存１４点すべての絵図に描かれており、江戸時代初期より現在まで存続してきたものと考えられる。

以上のように、亀山城惣構跡（秋葉神社・円通寺境内地）は近世以降のすがたを今に伝える貴重な文化財であり、亀山城跡の構造を研究する上でも重要資料となり得るものであり、亀岡市指定文化財指定に値する価値を有すると考える。

※今後の課題

実地測量を実施し、史跡の範囲や高さ・幅・長さについて正確な数値を押さえる必要がある（立命館大学工学部が測量を実施予定）。

【参 考 文 献】

『新修　亀岡市史　通史編第２巻』亀岡市史編さん委員会　２００４年
『新修　亀岡市史　資料編第２巻』亀岡市史編さん委員会　２００２年
『京都府遺跡調査概報　第７冊』京都府埋蔵文化財調査研究センター　１９８３年
『京都府遺跡調査概報　第２７冊』京都府埋蔵文化財調査研究センター　１９８８年
『京都府遺跡調査概報　第６６冊』京都府埋蔵文化財調査研究センター　１９９５年
『亀岡市文化財調査報告書第６１集』亀岡市教育委員会　２００２年
『亀岡市文化財調査報告書第９５集』亀岡市教育委員会　２０１８年（3月刊行予定）